

ビジネスパーソンの【働き方】を考える Vol.2 就職先の理想と現実



ジェイアール東海エージェンシーでは、ビジネスパーソンの行動・心理研究の一環として、全国のビジネスパーソンを対象とした大規模サンプルでの「ビジネスパーソン調査」を2014年から5年間にわたり毎年実施しています。

そこで大量に蓄積されたデータベースから、「働き方」に関するデータをピックアップしてお届けするスペシャルレポート「ビジネスパーソンの【働き方】を考える」（全4回）。

Vol.2「就職先の理想と現実」では、2015年の調査データをひもときながら、勤務先への満足度、就職活動時と現在の仕事観の違いといった切り口で、ビジネスパーソンの“働きがい”について考えます。

- DIGEST -

勤務先企業への満足度

現在の勤務先への満足度は43.8%。

管理職～経営陣と役職が上がるにつれて満足度が高くなり、不満も少なくなっていく傾向が顕著。

就職したかった企業と現在の勤務先企業のイメージの違い

安定した職場で腰を落ち着けて働きながらも、

待遇ややりがいに関しては就活当時の理想とのギャップを少なからず感じている。

現在の仕事観と就職時の仕事観の違い

就活時に比べて自己実現意向が後退し、ワークライフバランスや収入確保をより重視。

役職が上がるにつれて、社会貢献意識の上昇度が高くなる傾向。

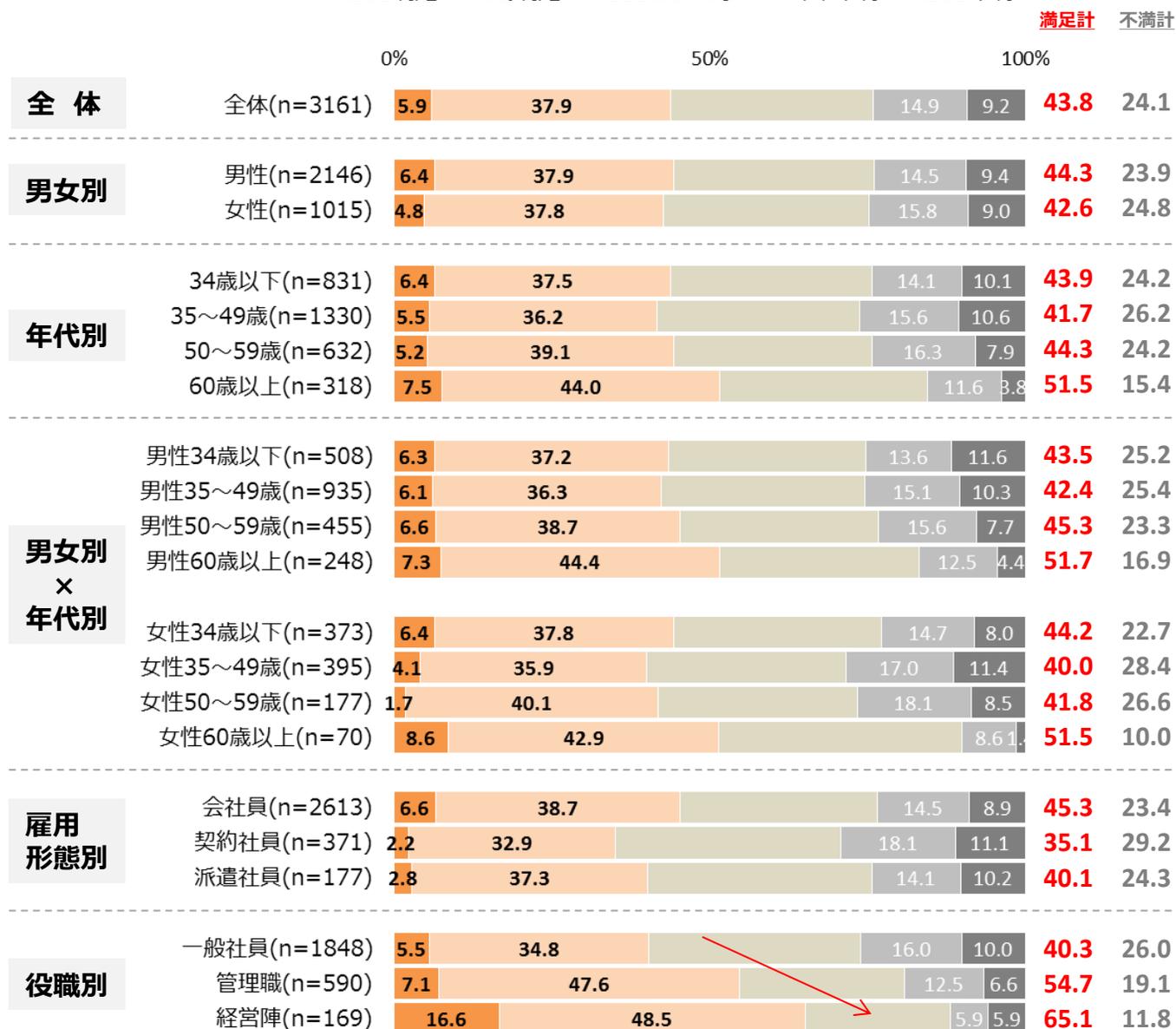
1. 勤務先企業への満足度

現在の勤務先への満足度は**43.8%**
 役職が上がるほど満足度も高くなる

- 全体の43.8%が現在の勤務先に“満足”している一方、“不満”を感じているのは24.1%。男性と女性では差がなく、年代別にみると60歳以上が他の年代にくらべて満足度が高くなっています。
- 役職別で見ると、管理職～経営陣と役職が上がるにつれて満足度が高くなり、不満も少なくなっていく傾向が顕著です。

勤務先企業への満足度 (SA)

■ とても満足 ■ まあ満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ とても不満



2. 就職したかった企業と現在の勤務先企業のイメージの違い

安定した職場で腰を落ち着けて働きながらも、待遇ややりがいに関しては就活当時の理想とのギャップを少なからず感じている

- 就職活動時に望んでいた企業のイメージと現在勤務している企業のイメージを比較すると、多くの項目でポイントが下がっており、中でも減少幅が大きかったのは「給料がよい」「安定している」「働きがいがある」「自分のやりたい仕事ができる」。
- 逆に、就活時を顕著に上回ったのは「転勤がない」のみであり、比較的安定した職場で腰を落ち着けて働きながらも、待遇ややりがいに関しては就活当時の理想とのギャップを少なからず感じているようです。

就職したかった企業と現在の勤務先企業のイメージ (MA、n=3,161)



3. 現在の仕事観と就職時の仕事観の違い

就活時から比べて自己実現意向が後退し、ワークライフバランスや収入確保をより重視。
 役職が上がるにつれて、社会貢献意識の上昇度が高くなる傾向

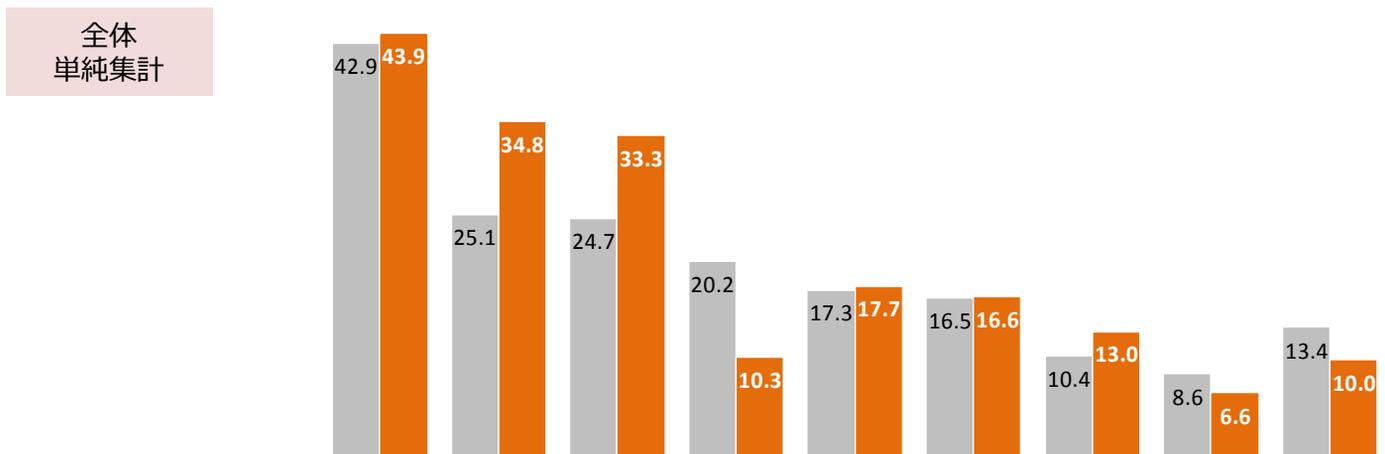
- 就職活動時の仕事観と現在の仕事観を比較すると、全体では「個人の生活と仕事を両立させたい」「収入さえあればよい」が顕著に増加し、「自分の夢のために働きたい」が減少しています。
- 就職時から現在の増減を見ても、「収入さえあればよい」では契約社員と派遣社員、「社会に貢献したい」では経営陣の増加が目立ちます。「楽しく働きたい」では派遣社員も経営陣も増えており、両者で“楽しく働く”の意味が異なっていることが推察されます。

現在の仕事観と就職時の仕事観 (MA、n=3,161)

単位：%

■ 就職時の仕事観

■ 現在の仕事観



就職時→現在の増減		n	楽しく働きたい	個人の生活と仕事を両立させたい	収入さえあればよい	自分の夢のために働きたい	プライドの持てる仕事をしたい	人のためになる仕事をしたい	社会に貢献したい	出世したい	当てはまるものはない
全体		3161	1.0	9.7	8.6	-9.9	0.4	0.1	2.6	-2.0	-3.4
男女別	男性	2146	0.4	9.2	6.5	-9.9	1.2	0.9	3.3	-2.7	-2.6
	女性	1015	2.3	10.8	13.1	-9.8	-1.1	-1.5	1.0	-0.8	-4.9
年代別	34歳以下	881	2.9	13.6	5.4	-8.2	-0.1	-2.2	-1.2	1.4	-2.9
	35~49歳	1330	-0.5	11.2	8.8	-8.3	3.2	3.0	4.6	-2.0	-3.7
	50~59歳	632	1.9	5.4	12.2	-14.4	-0.6	-0.1	3.8	-4.3	-3.7
	60歳以上	318	0.0	0.6	9.7	-12.3	-7.5	-4.4	2.2	-7.2	-2.8
男女別 × 年代別	男性34歳以下	508	1.0	12.0	1.7	-5.7	0.9	0.0	-0.6	3.2	-2.2
	男性35~49歳	935	-1.0	11.6	5.8	-8.2	3.8	3.8	5.0	-2.5	-2.9
	男性50~59歳	455	1.3	5.3	10.8	-16.0	2.2	0.4	4.9	-5.5	-2.7
	男性60歳以上	248	2.4	1.3	11.3	-13.7	-9.7	-7.3	1.6	-9.7	-2.4
	女性34歳以下	373	5.6	15.9	10.1	-11.6	-1.6	-5.4	-2.2	-1.0	-3.8
	女性35~49歳	395	0.5	10.4	16.2	-8.6	2.0	1.0	3.5	-0.8	-5.6
	女性50~59歳	177	3.4	5.6	15.9	-10.2	-7.9	-1.7	1.1	-1.1	-6.2
	女性60歳以上	70	-8.6	-1.4	4.2	-7.1	0.0	5.7	4.3	1.4	-4.3
雇用形態別	会社員	2613	0.4	10.0	6.7	-9.9	0.9	0.1	3.0	-2.0	-2.7
	契約社員	371	0.3	6.0	18.9	-9.2	-3.0	0.5	1.4	-2.2	-4.3
	派遣社員	177	10.7	12.4	16.4	-11.3	0.6	-1.1	-1.1	-1.7	-10.8
役職別	一般社員	1848	0.6	10.5	8.9	-9.1	0.5	-0.3	1.5	-1.6	-3.1
	管理職	590	-1.8	10.2	1.4	-11.9	3.1	0.9	5.1	-1.9	-0.7
	経営陣	169	7.7	5.4	1.2	-10.6	-1.8	4.1	12.4	-7.7	-4.8

● 調査結果から

今回は、「就職先の理想と現実」というテーマで、ビジネスパーソンが現在の仕事や会社にどのぐらい満足しているのか、また、仕事に対する価値観が就活時と現在でどのように変わるのかを見てみました。その結果、一般社員よりも管理職、管理職よりも経営者の方が会社への満足度が高く、また、就活時以来の「社会に貢献したい」意識の伸びも、経営層において一層顕著であることがわかりました。

経営層という地位に付帯する決裁権や社会的影響力の大きさ、報酬の高さなどが、上記の結果に少なからず寄与していることは間違いのないでしょう。しかし、これらが会社への満足度や社会貢献意識を向上させる要因のすべてなのかという点、おそらくそうではありません。

「天職」という言葉があります。辞書の定義にしたがえば、文字通り「天から与えられた職務」であって、「その人の性質・能力にふさわしい職業」を意味します（『大辞林』）。たとえ経営層に属する人であっても、仕事そのものが自身の適性とのバランスを欠いていれば、十分なやりがいや満足を得ることはできません。一方、これが天職だという自覚をもって働く人の姿は、その職位や報酬にかかわらず、いつも充実感に満ちています。

「天職とは、最初からあるものではなくて、働きながら育った人格が後から見出すもの、その人の心の在り様次第のもの。」（水上勉 『働くことと生きること』）

天職という「心の有り様」を見出したビジネスパーソンは、自身と自身の仕事について迷いがなく、そのひとつのあらわれが、会社に対する高い満足度と社会貢献意識の大幅な向上なのかもしれません。そのような境地にある人に経営層という立場が後からついてくることが多い、という見方には、それなりの説得力があるように思えます。

調査概要

調査方法	インターネットリサーチ
調査地域	日本全国
調査対象	20歳～69歳の男女ビジネスパーソン
割付方法	2014年度の労働力調査結果の性別・年代比率に準じて「就業者」を回収し、「パート・アルバイト」を除いて集計・分析を実施
調査日時	2015年3月11日(水)～2015年3月24日(火)
調査機関	株式会社ジェイアール東海エージェンシー 株式会社インテージ オルフェウスコンサルティング株式会社

＜調査結果の引用・転載、取材などに関するお問い合わせ先＞
 株式会社ジェイアール東海エージェンシー 企画マーケティング部 担当：大橋
 TEL: 03-6688-5009 e-mail: d-oohashi@jrta.co.jp